

ザンビアの医療協力計画、 3 主要活動を確認

NGOの協力を得た地域住民参加型案件形成

わが国政府はザンビア政府から要請のあったプロジェクト方式技術協力による「プライマリーヘルスケア・プロジェクト」の事前調査のため、2月13日から3月1日まで調査団を派遣したが、同調査団はザンビア保健省はじめ関係機関との協議および調査を行い、以下の3点を本プロジェクトの主要活動とすることを先方と確認した。

①ルサカ市周辺の3つのモデル・コンパウンド（数万から数十万人規模の集落）を選定して、住民参加による保健活動の強化を図る。

②一次医療機関であるアーバンヘルスセンター（UHC）のシステム整備、医療および管理スタッフの訓練・技術向上を図る。

③上位医療機関とUHCの医療サービスの連携強化を図る。

今次調査の目的・概要は、ルサカ市都市部の基礎的な保健医療の体制を強化・整備することを目的としている。

本プロジェクトでは特に、住民参加型の視点に立った案件の形式により、基礎的な保健医療の強化を図るため、地域に密着した草の根の活動を行っているNGOの視

点を踏まえることとし、わが国のNGOとして途上国の災害医療援助、医療協力の豊富な実績を有するアジア医師連絡協議会（AMD A）の協力を得た。

調査団の構成は

団長：菅波茂（AMD A代表）

団員：石井洋次郎（JICA医療協力部医療協力第2課課長代理）

同：山本秀樹（AMD A副代表、岡山大学医学部公衆衛生学教室助手）

同：高橋央（AMD A副代表）ほか2名。

なお、わが国政府は同調査団の調査結果を踏まえ、協力内容を整理した上で、本年9月～10月頃に実施協議調査団を派遣して、2国間協力として本プロジェクトを発足させる予定である。